

第2学年 道徳学習指導案

1組 計26人 (男子13人,女子13人)

指導者 野下賢剛

1 主題名 物を大切にすることは(1-(1) 節度・節制,自立)
読み物資料「ノートのひこうき」(学習研究社2年)

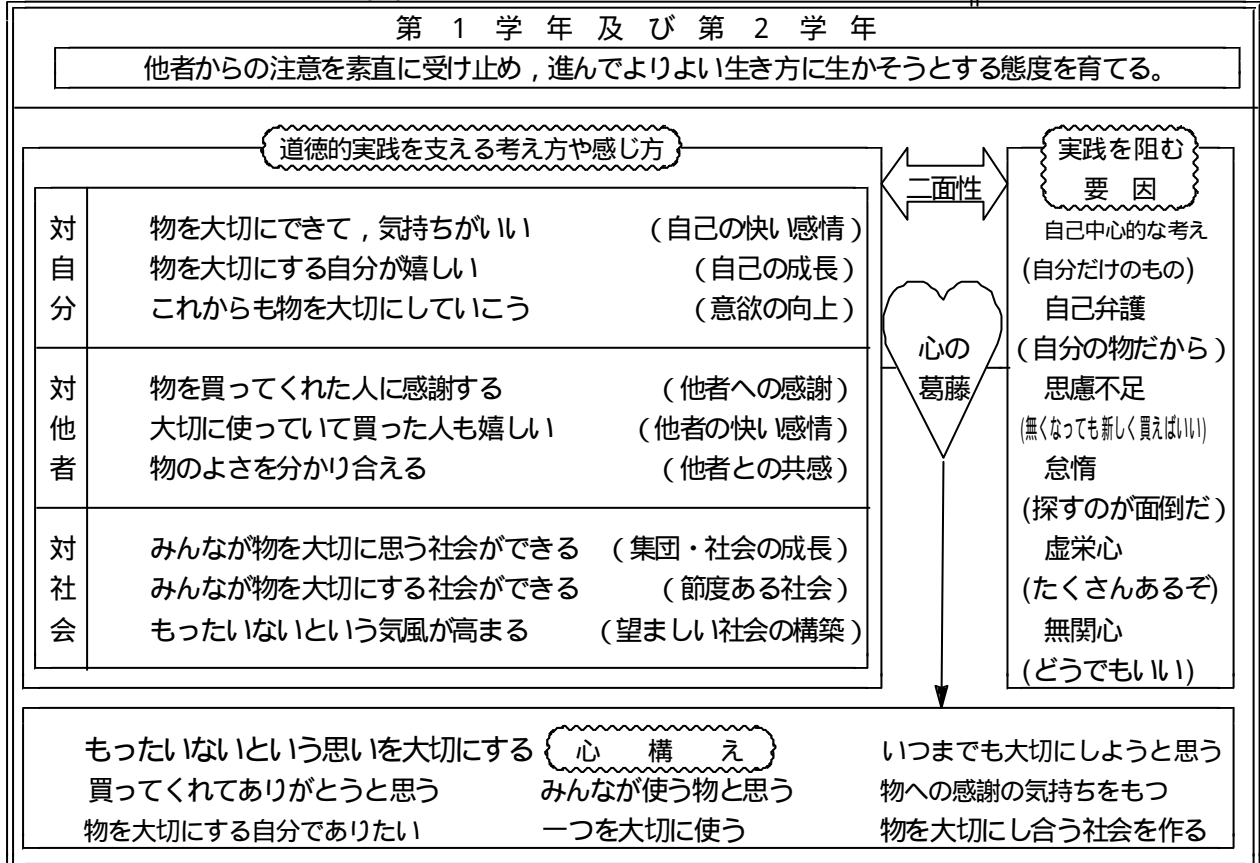
2 主題について

(1) 内容項目とその系統

(2) 指導内容についての基本的な立場

<p>【低学年1-(1)】 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。</p>	<p>「節度」とは、他者との関係を適度に保つために自制することであり、「節制」とは、自分の心を統制し、理性を働かせて適度な調和を保つことである。進んで自分の生活を見直すこと、思慮深く考えてわがままにならないように心掛けたり、他人からの注意をしっかりと聞いたり、自分やみんなの物を大切に扱うことなどは、日常生活を送っていく上で重要なことであり、それらを自ら進んで行うことは、自身の生活をよりよくしていくことにつながる。</p>
<p>【中学年1-(1)】 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。</p>	<p>この期の子どもたちは、望ましい学習態度が身に付きつつあり、学習に必要な用具をきちんとそろえたり、用途に合わせて使いこなしたりできるようになってきている。しかし、自己中心的な考えや思慮不足から、必要以上に持ち物を増やしたり、みんなで使う物を大切に扱わなかったりして、トラブルの要因になることがある。</p>
<p>【高学年1-(1)】 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。</p>	<p>そこで、本主題では、自分の持ち物やみんなで使う物を大切にすることが、自分のよりよい生活に結び付くことや、物を大切にしないと悔やまれる結果にまでなる場合があることに気付くようにする。また、持ち物は、身近な人が期待を込めて自分を買ってくださった、感謝すべき物であるという意識をより高めることができるように、物をくださった人の気持ちにも迫るようにする。これらのことにより、子どもが物を大切にすることのよさを自覚し、進んで自分やみんなの物を大切に使うとする態度を育てる。</p>

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造



(は重点項目)

3 子どもの実態

(調査人数26人 重複あり H21.9.17)

(1) 本主題に関する経験場面		(2) 本主題に関する経験の理由	
物を大切にできた経験	人数	物を大切にできた理由	人数
・ 遊び物(ゲーム、キーホルダー、フロックぬいぐるみ)	14	・ 壊すと大変だ(無いと困る)から	7
・ 学用品(本、教科書、ノート、筆箱、鉛筆、消しゴム、はがき)	11	・ すぐに(長く)使えるから	6
・ みんなの物(学級のボール)	1	・ 好きな物(大切な物)だから	6
		・ 大切にしようと思ったから	3
		・ 大切にしなさいと言われたから	3
		・ 買ってもらった(もらった)物だから	3
(3) 本主題に関する経験場面		(4) 本主題に関する経験の理由	
物を大切にできなかった経験	人数	物を大切にできなかった理由	人数
・ 学用品(本、教科書、ノート、筆箱、鉛筆、消しゴム、絵の具、机)	10	・ 物を大切にしている気持ちを忘れたから	7
・ 私物(服、帽子、靴、上履き、バッグ)	9	・ 大切にしないでいいと思ったから	5
・ 遊び物(ボール、カード)	4	・ 好きじゃない物(古い物)だったから	4
・ 古くなった物	3	・ フライラしていたから	4
		・ 急いでいて大切にできなかったから	3
		・ 壊して(無くして)しまったから	2
		・ 新しい物が欲しかったから	1
(5) 道徳的価値の意義		(6) 道徳的価値に対する心構え	
物を大切にすることはなぜ必要か	人数	物を大切にするためにどんな気持ちをもつか	人数
・ 自分が使えなくなる(損する)から	13	・ 大切にすることを忘れない(強くもつ)	16
・ 人から買ってもらった物だから	3	・ 物に感謝の気持ちをもつ	4
・ 物が可哀そうだから	3	・ みんなで使う物を大切にする	2
・ エコをしないといけないから	2	・ 長く使おうという気持ちをもつ	2
・ もったいないから	2	・ もったいないという気持ちをもつ	2
・ 物を大切にしない心になるから	1		
・ 大切にしないと怒られるから	1		
・ 買ってくれた人が悲しむから	1		

【考察】

学級のすべての子どもが、遊び物や学用品を大切にできた経験を想起している。みんなで使う物を想起した子どもは一人であった。物を大切にできた理由としては、「無いと困るから」、「好きな物だから」など、自分の都合による意見が大多数であるが、「買ってもらった物だから」と相手を意識した考えをもっている子どもが3人いる。一方、物を大切にできなかった経験もあり、その理由としては、「大切にしている気持ちを忘れたから」、「大切にしないでいいと思ったから」、「好きじゃないから」など、自己中心的な考えや思慮不足が要因となっていることが分かる。また、物を大切にすることの意義では、「自分が使えなくなるから」と自分の利便性を意識する子どもが多い。加えて、相手を意識した考えからの「買ってもらった物だから」、アニミズム的思考の「物が可哀そうだから」などが挙げられている。そして、物を大切にするための心構えでは、「大切にすることを忘れない」という考えが多く、次いで「物に感謝の気持ちをもつ」、「もったいないという気持ちをもつ」という考えが挙げられている。

そこで、本時では、大切にすべき物の中には、みんなで一緒に使う物も含まれるのだという意識を、アンケート調査結果の提示により広げていく。また、物を大切にできない理由が、自己中心的な考えや思慮不足からであることを確認し、課題意識を高められるようにする。そして、買ったすぐのノートは大切に使っていたが心変わりして大切にできなかった資料の主人公の心情をつかむことを、自分の経験を想起した上での共感的理解を通して行い、「買ってもらった人への感謝の気持ちをもつ」、「物への感謝の気持ちをもつ」、「みんなで使う物を大切にする」などの心構えをもつことができるようにする。加えて、「エコ」や「もったいない」というキーワードに着目し、今の時代背景を話題にしながら、実践意欲を高めることができるようにする。さらに、価値の自覚化を図る場面で、物を大切にすることができた経験を振り返り、その時に見つめていた気持ちと合わせて考えることによって、その後の生活に夢や希望を膨らませることができるようにしていく。

4 本時

(1) 目標

自分やみんなのものを大切にしようとする態度を育てる。

(2) 指導に当たって(研究の視点との関連)

子どもの実態や主題のねらいを踏まえ、次のようなことに配慮して指導していく。

「気付く」過程で、実態調査の結果を基に意図的指名を取り入れたり、自分の経験が書き込まれた「自分づくりカード」を見せたりすることを通して、物を大切にできなかった理由を想起しやすくすることで、課題意識を高めためあての設定につなぐことができるようにする。

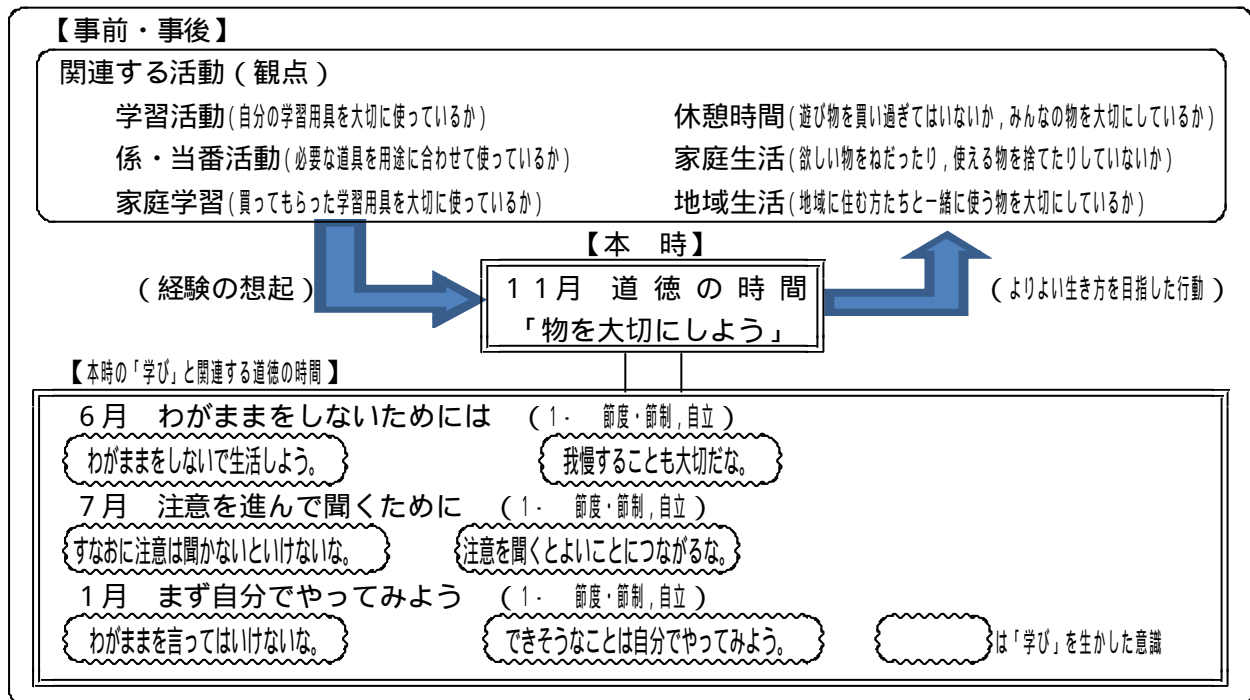
「見つめる」過程で、資料の主人公の気持ちと比較する「心のつなひき」や、友だちの考えと比較し、どの考えを大切にすることを判断しやすくする価値観の類型化を取り入れることで、子どもが自己の「学び」をより見つめて生かしくなるようにする。

「深める・高める」過程で、大切にしたい心構えと関連する経験を振り返り、「自分づくりカード」にまとめる活動を取り入れることで、主題に関する考えの変容を視覚的にとらえ、自らの成長に気付くことができるようにする。

(4) 本主題における「学び」の系統及び関連

むだ遣いをせずに、物を大切にしようとする子ども			
	道徳性に関する発達	心の弱さ	大切にしたい心構え
高学年	<ul style="list-style-type: none"> 先を考えて行動することができるようになってくる(見通しをもった行動) 自己の欲求を抑えて行動できるようになる(忍耐力の成長) 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の価値判断に基づき行動してしまう(価値観の画一化) 他のことに夢中になってしまう(責任感の欠如) 	<ul style="list-style-type: none"> 物を大切にできる自分に自信をもつ。 物を大切にすることのよさを味わう。 物を大切にしよう。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 相手や集団のことを考えて行動できるようになる(社会性の成長) 行為に対して、内省することができるようになってくる(反省能力の成長) 自分の成長のために自分でする(自律的な考えの成長) 	<ul style="list-style-type: none"> 他人の意見に流されてしまう(主体性の欠如) だれかがしてくれるだろうと頼ってしまう(主体性の欠如) やらなくて物となるだろうと考えてしまう(楽観的な考え、思慮不足) 	<ul style="list-style-type: none"> 一つの物をいつまでも大切ににする。 みんなの物を大切にしようという意識が高まる。 買ってくれた人に感謝の気持ちをもつ。
低学年	<ul style="list-style-type: none"> よいことと悪いことの区別がつくようになってくる(善悪の判断) おこられるから自分でする(他律的な考え) 	<ul style="list-style-type: none"> 誘惑に負けてしまう(自己中心的な考え) 苦しみに直面すると、すくにあきらめてしまう(労苦からの逃避) 	<ul style="list-style-type: none"> 物に対して感謝の気持ちをもつ。 もったいないという考えを大切ににする。 一つの物を大切に使う。

【節度・節制、自立に関する「学び」の関連】



【資料について】

新しいノートを手にしたゆきおは、丁寧に字を書き大切に使っていた。ところが、友だちが紙飛行機を飛ばしているのを見たゆきおは、新しいノートの紙を破り、紙飛行機にして飛ばしてしまう。破かれたノートの紙飛行機は、校庭でどろんこになり、風で校庭の隅へ飛ばされてしまう。

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
(分) 気 付 く (5)	1 物を大切にできなかった経験について話し合う。 持ち物を大切にできなかったのはどんな時があるでしょう。その時どんな気持ちでしたか。 消しゴムをすぐなくしてしまいます。買ってもらったのにごめんなさいという気持ちです。 机に落書きをしたことがあります。みんなが使う物なので悪いなと思いました。 物を大切にするためには、どんな気持ちをもてばよいか。	実態調査を基にした意図的指名や、「自分づくりカード」を見せて考えられるようにすることで、経験場面を幅広く想起できるようにする。物を大切にできなかった時の素直な気持ちの想起後、「物は大切にしないでいいのか」と、切り返しの発問をすることで、物を大切にすることへの課題意識を高める。様々な要因で物を大切にできないことが、誰にでもあることを認め合うようにすることで、課題意識が高まった上でのめあての設定につなげる。
見 つ め る (30)	2 資料「ノートのひこうき」を読んで、ゆきおの気持ちを中心に話し合う。 (1) 新しいノートを手にした時のゆきおの気持ちについて話し合う。 ゆきおくんは、どんな気持ちでノートに書きこんでいたでしょう。 ・ 新しいノートで嬉しいなあ。 ・ 丁寧に字を書こう。 ・ 買ってくれてありがとう。 (2) ノートの紙で飛行機を作ろうとする時のゆきおの気持ちについて話し合う。 友だちの飛行機を見た時、ゆきおくんはどんなことを考えたでしょう。 ・ 楽しそうだなあ。 ・ 自分も作ってみたい。 ・ ノートをやぶっていいかなあ。 (3) ノートを大事にするべきであったゆきおに、アドバイスする手紙を書く。 ノートを大事にするべきだった理由を付けて、ゆきおくんの手紙を書こう。 対自 ・ ノートを大事にしないとったいいない。 ・ お金がむだになるよ。 対周 ・ せっかく買ってもらったノートだから。 ・ ノートが可哀そうだよ。	ゆきおと自分自身を比較しての共通点や相違点という観点をもって、朗読CDから資料を視聴できるようにすることで、話し合う場面の焦点化を図る。ゆきおの表情絵を板書に生かすことで、ゆきおの気持ちの変化をとらえやすくする。 問題場面と類似する経験想起の発問をすることで、ゆきおがノートをやぶることに迷う気持ちを考えることができるようにする。「心のつなひき」を活用し、ゆきおと比較した自分の気持ちを視覚的に表すことで(ノートをやぶる 青、やぶらない 赤)、日常生活と結び付けた判断ができるようにする。 手紙に表れた、物を大切にすることへの価値観を、2つの観点(対自分、対周囲)で教師が分類することで、子どもが友だちの考えと比較したり、今後に生かしたい考えを判断したりしやすくする。 本主題に関わる価値観を広げたり、深めたりすることができたか。【手紙・発言】
深 め る ・ 高 め る (10)	3 これまでの自分を振り返り、物を大切にすることに関する経験や考えをまとめる。 物を大切にすることができた時のことを思い出してみましよう。その時、どんな考えを大切にしていましたか？ 落し物を拾って先生に届けた時、物を大切にすることができました。その時、物は大切にしないでいいないという考えを大事にしました。	「自分づくりカード」を用いて、本主題に関する心構えをまとめ、経験の振り返りという形で整理することにより、自分の考えや気持ちの変化についても振り返るようにする。 実態調査を生かし、称賛の言葉掛けをしたり、ヒントカードで経験を振り返りやすくしたりすることで、まとめることが困難な子どもが、記入しやすくなるようにする。